

I. 教育

1. 湯浅農場

1) 農場実習

附属農場で担当している農場実習としては、農学部農業生産科学科と応用生命化学科の「農場実習」（3年生、選択、2単位）、バイオサイエンス学科の「バイオ実習」（3年生、選択、2単位）で、月曜から土曜日までの6日間、集中実習方式で実施している。

応用生命化学科とバイオサイエンス学科は夏季休暇中に実施し、農業生産科学科は夏季休暇期間を省く、5月～12月までの期間に実施している。平成20年度の実施実績は第1表の通りである。

学習・教育目標および到達目標としては、附属農場での農作業を体験することにより、個々の作物の栽培技術を学ぶとともに、商品性を高める管理技術、安全で、効率的な作業方法や農作業に関する理念を学ぶ。さらに、農場での実習やセミナーハウスでの共同生活を通して、集団の中での自己の役割と責任を自覚し、協調性を養う。

週間計画としては、月曜日は実習のオリエンテーション、農場の概要と栽培作物の栽培技術等の講義。火曜日～金曜日までは、午前9時より午後4時30分まで場内で実習を行う。土曜日は午前中までとし、基本的にセミナーハウスの清掃等を行うが、実習を入れることもある。この間に、農場で保存管理している柑橘系統・品種保存園等を見学する。

実習内容としては、ミカン、ハウス栽培のマンゴー、水稲の管理を中心として行い、他に、防風林のせん定や粉碎したせん定枝と生石農場からでる家畜糞を混合して、堆肥作りを体験する。また、ミカンの収穫期には、ミカンの収穫、選別、箱詰め等の作業を体験する。

成績評価方法および評価基準としては、実習での作業態度と責任感、セミナーハウスでの生活態度等、総合的に判断して評価している。

他に、生物理工学部生物工学科生物生産工学研究室が「農場実習」として、年間3回（計25名）、ウメの収穫、せん定等の実習を受け入れている。



写真 セミナーハウス



写真 水稲播種作業



写真 ミカンの収穫作業

第1表 農場実習実施状況

学科名	研究室名等	期 間	人数	主な作業内容
農業生産科学科	植物感染制御工学研究室	5月12日～5月17日	13	水稲育苗、マンゴー管理他
	作物資源生産学研究室	5月19日～5月24日	16	水稲育苗、ウメ収穫他
	育種工学研究室	9月15日～9月20日	23	水稲籾摺、マンゴー管理他
	植物感染制御工学研究室	9月22日～9月27日	20	水稲籾摺、ミカン管理他
	昆虫生態制御学研究室	11月17日～12月22日	13	ミカンの収穫、選果
	農業政策学研究室	11月24日～12月29日	4	ミカンの収穫、選果
	園芸植物学研究室	12月1日～12月6日	13	ミカンの収穫、選果
	園芸植物学研究室	12月8日～12月13日	11	ミカンの収穫、選果
バイオサイエンス学科	1班	8月4日～8月9日	25	マンゴー管理、堆肥作り他
	2班	8月18日～8月23日	6	マンゴー管理、堆肥作り他
	3班	8月25日～8月30日	24	マンゴー管理、堆肥作り他
応用生命化学科	1班	9月1日～9月6日	19	マンゴー管理、堆肥作り他
	2班	9月8日～9月13日	26	ミカン摘果、水稲収穫他

2) 学部教育

①農学部農業生産科学科 農学特別講義Ⅰ（2年後期、選択、2単位） 担当 文室政彦

②理工学部教職課程 園芸学（2～4年生必須、4単位） 担当 文室政彦

他に、分担として、農学部農業生産科学科 農学野外実験Ⅰ、Ⅱ（1年生必須、4単位）を担当。

2. 生石農場

生石農場では農場実習は実施していないが、生物理工学部学生に対して随時見学を受け入れており、家畜学の実地研修の場として、重要な役割をはたしている。

1) 学部教育

①生物理工学部遺伝子工学科 発生工学Ⅱ

（2年前期、必修、2単位）

担当 岸 昌生

②農学部農業生産科学科 家畜育種学

（夏期集中講義、3年、選択、2単位）

担当 岸 昌生



写真 研修棟（ログハウス）全景